

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470206115		
法人名	有限会社 ヤシロ企画		
事業所名	グループホーム ふじの里		
所在地 (電話番号)	広島市佐伯区藤の木2丁目27-5 (電話) 082-927-3052		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年10月24日

## 【情報提供票より】(20年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 12.92	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	1階～ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000～52,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷金	有( 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	150,000円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性 2 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	黄内科医院・生協佐伯病院・ほりえ歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅団地の中心部にあり、近くには、公民館、公園、小中学校など、環境に恵まれている。開設3年目にあたり、職員全員で、より良いホームづくりを目指し、日々努力されている。屋上には、草花を植え、家庭菜園を作り、自然にふれあう環境づくりが実践されている。また、地道な地域活動の結果、町内会、女性会など近隣との交流も深まりつつあり、地域に根差した家庭的な雰囲気の中でゆったりと暮らせるホームを目指し、意欲的な取り組みがなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は①評価にもとづく改善②運営推進会議③家族への報告④苦情申し立て機関⑤職員を育てる仕組み⑥災害対策であった。①～④は改善が進んでいるが、その他は今後の改善課題であり、意欲的な取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今までは、管理者中心の自己評価だったが、今回の自己評価では、一部の職員にも、検討、参加させ、評価結果を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、開催されている。会議はホーム側からの現状説明や報告と質疑、地域行事や前向きな災害時の近隣支援体制などの議題が話合われ、地域とのコミュニケーションを通じて、交流を深めることに努められている。なお、メンバーは地域社協会長、女性会会長、民生委員、町内会長、包括センター職員、家族代表など多彩である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族への情報提供は、面会時のほか、請求書と共に、利用者の暮らしぶりや健康状況などを記入した手紙を添え、定期的に報告されている。苦情などは、ホーム直接の他、区の保健課など第三者機関でも可能になっており、契約書、重要事項説明書に明記されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、清掃活動、夏祭り、公民館祭りなどに積極的に参加している。運営推進会議や近隣、女性会、ボランティア団体とも積極的に交流し、地域の方々とのつながりを深めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の運営理念をかけた、利用者が基本的人権が保護され安心して、生きがいを持って暮らせるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事あるごとに話し合わせ職員間の共有化がはかられている。日常のケア活動を通じ、利用者それぞれの個性・残存能力を活かしながら、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるよう取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、清掃活動、夏祭り、公民館祭りなどに積極的に参加している。運営推進会議や近隣、女性会、ボランティア団体とも積極的に交流し、地域の方々とつながりを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、一部の職員で検討しまとめられている。評価を実施することの意義は理解され、評価を活かして改善に取り組んでいる。前回改善項目(6項目)のうち4項目の改善は進んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ、2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。会議はホーム側からの現状説明や報告、メンバーからの質問、意見、前向きな災害時の近隣支援体制などの話し合いがもたれている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の窓口にて、報告、相談、連絡をする機会をつくっている。また研修会などにも可能な限り出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に暮らしぶりなど、情報提供を心がけると共に、緊急な場合等には電話連絡している。また、請求書と一緒に、日頃の様子を記入した手紙を添えた定期便も月1回郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などには、入居時にも説明し、その後も意見や苦情など言いやすい雰囲気づくりに努め、訪問日時を事前に聞いて出来るだけ意見を聞けるよう心がけている。区の保健課など苦情申し立て可能な第三者機関も明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職などあった場合は、情報伝達に努めたり、言葉かけに注意し、ダメージを最小限にするよう努めている。2週間くらいはペアで対処している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修や社外研修には、出来るだけ参加するよう心がけている。資格等の取得に対しても援助をしている。	○	施設内での、勉強会、ミーティング、職員の話し合う機会の確保や、必要な研修が受けられる体制づくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学や意見交換を行っている。他の施設従事者の見学訪問の受け入れを行っている。	○	管理者だけでなく、職員を巻き込んだ、勉強会や相互訪問を行ない、更にサービスの質を向上させていく取り組みを期待したい。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう環境づくりを工夫している。本人や家族による事前見学、管理者による家庭訪問などを行い、今までの生活歴等を聞き会話を進めるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族同様に喜怒哀楽を共にし、出来る限りの関係を築くよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族の訪問時に、本人と話し合いながら生活歴や希望・意向の把握に努めている。可能な限り、思いに沿ったケアができるよう努力している。		日常のケア活動を通じて得た「思いや意向」を記録に残し、蓄積してゆく仕組みづくりを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一人ひとりが、よりよい暮らしが出来るケアのあり方について、本人、家族、関係する職員で充分話し合い、それぞれのアイデアを出し合った上で、作成されている。		ケアマネージャーの意見などが、ケアの現場で反映されているかフォローアップのため、カンファレンスを頻繁に行うことなどを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	関係者で話し合い、定期的または必要に応じた介護計画に変更するよう心がけている。	○	チェックシート表などを用いて、一人ひとり課題の進捗が定期的にチェックされ、計画見直しにつながる仕組みづくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や、里帰りなども、家族と相談しながら、柔軟に対応した支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、在宅療養支援診療所での対応により、安心して適切な医療が出来るように心がけている。本人や家族の希望があれば、納得が得られるかかりつけ医でも受診できるよう対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、ホームとして基本方針を決めて取り組んでいる。意思表示のあった家族に関しては、医療機関並びに、家族と話し合い個別の方針を決め職員全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねず、その人らしい生活ができるよう職員への認識の徹底を朝礼やミーティングにより伝えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、その日の体調も考慮しながら、その人らしい生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、一緒に食事をとり家庭的な雰囲気づくりと介助が行われている。また、一部の人には調理の手伝い、テーブル拭きや片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回としているが、汚染があればその都度対応している。本人の希望にも出来るだけ対応し、嫌がる人にも、色々工夫しながら入浴してもらえよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力にあわせた掃除、後片付け、洗濯物たたみなどをやってもらっている。楽しみごとでは、習字、料理、カラオケ、月行事などを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を出来るだけ取り入れ、散歩や買い物など職員と一緒に出かけている。地域行事や年数回の季節行事など、ホームにこもらない生活を心がけている。また、家族との外出も勧めている。		屋上スペースの活用なども含め、できるだけ外出や外気に触れる機会を増やす工夫を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は理解をされ、基本的には日中施錠されていない。やもう得ず施錠する時もあるが、家族には了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアル表示されている。消防訓練は行なわれているようだが、本格的な避難訓練はまだ行われていない。地域の方々の協力が得られ、災害発生時の地域支援体制、緊急連絡網の整備などは行われている。	○	年1回以上、利用者を含む全員による避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	社外業者に委託しており、栄養バランスとカロリーに配慮したメニューとなっている。調理は職員が行い、一人ひとりの状態や習慣に応じた調理も行われている。食事、水分摂取量は、バイタルチェックに基き管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るいリビングには、花を生けたり、利用者の写真を飾ったり、家庭的で居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、和室コーナーもあり、憩いと洗濯物のたみ場所として使われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、利用者それぞれが、居心地良く過ごせるようになっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I 理念の基づく運営</b>				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念には独自の内容は記入されていないが、取り組みとして屋上を開放して、菜園や気分転換の場として活用している。	○	今後夏場の有効利用が出来る様な設備を設ける。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	声掛けにより理念に基づいた支援に努力している。	○	朝の申し送り時間を利用して、理念の理解と実践について、職員に浸透させる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営委員会や近隣との交流により、地域の人たちにかなり理解してもらおうようになった。	○	時間を掛けて全員に協力して頂くよう努力する
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の行事や公民館活動に参加している。又、散歩時に、挨拶、声掛けを行っている。	○	気軽に、近隣の方にホームの方に立ち寄り、一緒に散歩などできる関係を作りたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に、入会して清掃活動参加している。夏祭り・公民館祭り・ひな祭り等に参加させてもらっている。又、女性会に加入し生け花教室に参加し、施設の近況や交流を深めている。近くのボランティア団体との交流を実施して		



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の民生委員の協力を得ながら取り組んでいる。	○	
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	注意事項などは、朝礼又書類により伝達しているが、具体的な改善までは到っていない	○	具体的な改善までには到っていない。 ミーティング等を利用して、全員が理解するように取り組む
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において意見や提案を、 していただく様な環境が出来つつある。	○	推進会議の意見や提案を活かして、事故、利用者サービスや評価の報告相談を蜜にして、近隣の協力が得られる様にする。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	報告事項や、相談、連絡は滞りなく行っている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在は、成年後見制度を必要とされる方はいないが、今後のために必要に応じ支援したいと思 います。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加して、報告書を提出し又、朝の申し送り等で報告や相談を行なっている。	○	勉強会等で、虐待の認識を深める。朝の申し送り時に利用者の身体状況の報告により確認して防止に努めている。
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約は十分説明を行い納得できるまで説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情 ご意見箱を設けている。 訪問時など話を伺い対応をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	訪問時など暮らしぶりなど報告をしている 緊急な場合等は電話で連絡している。 請求書を発送する際日頃の様子を記入した簡単な文書等を入れ報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問日時を事前に聞いて、出来るだけ意見を聞ける様に心掛けている。又、家族会なども伺う様に心掛けている。	○	家族会の回数を増やし多くの意見が聞かれる様にする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングにより意見や提案を聞く機会を設け反映させる。	○	今後は運営者と職員の話し合いも実施して行きたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	朝の時間帯については、特に起床や朝食時間などは利用者の健康状態や要望により柔軟に行っている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	該当なし。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会には出来る限り参加するよう心がけている。資格等の取得に対しては援助をしている。	○	施設内での研修を設けたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の施設の見学や意見交換を行っている。他の施設従事者の見学訪問の受け入れを行っている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	食事会等により職員間のコミュニケーションや入浴券の配布等によりストレス解消に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員に介護の工夫や勤務に対する意見を求めて改善出来る事は改善する様になっている。介護の研修会等に出来るだけ参加する様になっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前に、本人並びにご家族との話を聞く様に心掛けている。又ご入居ご訪問時に話しやすい環境に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	訪問時などに情報交換をすることにより、お互いが理解できるよう心掛けている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をケアプランに反映するよう心がける。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みの家具の持ち込みを進めている。今までの生活歴等を、聞き会話を進める様に心がけている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族同様に喜怒哀楽を共にし、出来る限りの関係を築くよう心掛けている。	○	現在出来ることを少しでも維持できるように、声掛けして本人の意思の確認を行う。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が自由に訪問出来る様に心がけている。 又、職員に認識の徹底を図る	○	
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	訪問時に近況報告、相談を必ず行う、家族と良く話し合って明るく生きがいのある生活が出来るよう努めている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族や友人の訪問を出来るだけお願いしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブルが起こらないよう居室、食事の机の配置の変更等を行い利用者間の関係改善をする。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じて対応に努める。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時、御家族の訪問時に、本人と話し合いながら意向の把握に努めている。本人の意見を必ず聞いて判断する。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時また訪問時にこれまでの環境、生活歴等を聞いて少しでも取り入れるよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝の申し送り時、前日の状況など報告と共に、状況変化を把握するように努めている。 病状変化の時は担当医師に報告、連絡し対応を相談している。	○	
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	数人の職員により意見交換をしながら行っている。 今後出来るだけ全員参加を目標とする。	○	カンファレンス会議を行い細かい介護計画を作成する。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて話し合いを行い、必要に応じ介護計画の変更するよう心掛けている	○	共通の介護計画、介護者の意見の取り入れ。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア記録を書いて、1ヵ月間の取り組みや見直し等をまとめて記録している。	○	
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	本年11月から取り組む予定。	○	
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化 ・教育機関等と協力しなが ら支援している。	お祭り、など地域での行 事での参加に心がけてい る。女性会、民生委員等と 連携をとっている。	○	
41	○他のサービスの活用支 援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケア マネージャーやサービス事 業者と話し合い、他のサ ービスを利用するための支 援をしている。	常時は行っていないが 必要に応じて行ってい る。		
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと協 働している。	運営委員会を通じて必 要に対応している。		
43	○かかりつけ医の受診支 援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得られ た係り付け医と事業所の 関係を築きながら、適切 な医療を受けられるよう 支援している。	家族と連絡を取りなが ら、かかりつけ医と共に 、現在は、在宅療養支 援診療所での、対応に よって、安心して適切 な医療が出来るように、 心がけている。	○	
44	○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係築きながら、 職員が相談したり、利 用者が認知症に関する 診断や治療を受けられ るよう支援している。	利用者様の係り付けの 医師との連絡を行って いる。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	必用に応じて行っている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	必要に応じ対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族と協議しながら、医療機関と連携を保っている。	○	医療機関と並びに御家族と話し合いながら支援に取り組む。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族と相談しながら24時間対応の医療機関と連携を行っている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	家族と、協議しながらご希望に添えるよう対応している。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの確保について、職員へ認識の徹底を朝礼やミーティングにより尾kなっている。	○	



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意思を聞きながら、家族と相談して本人の希望に沿う様に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調を考え、出来る限り、希望に沿うよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者の介護度に応じて家族と相談しながら対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は大変楽しみの一つで喜んで頂けるよう支援しています。現在、声掛けは行っているが、片付け、テーブル拭き、手の消毒など出来ることを手伝っている。	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況により実施している酒、タバコについては、契約時家族に納得のいく充分説明をして、ご遠慮して頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別に対応するように心がけている	○	出来限り、オムツ使用を少なくする様に努める。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には週3回としているが汚染があればその都度対応している。又、本人の希望の希望にも必用に応じて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼間は出来るだけ散歩（館内含む）などの活動をされる様に声掛け誘導を行っている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の方々の趣味、特技を認知度に応じた活動（習字、料理、カラオケ）などを行っている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	契約時の説明によりお金の所持は禁止としている。但し、外出時などは家族の了解を得て小遣い使えるように行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望を出来るだけ取入れ、散歩や買い物など一緒に出かけている。又、家族との外出も勧めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年2回程度、バスでの外出する機会を設けている。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必用に応じて行っている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるように、職員皆が快く受け入れる様にしている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	朝礼やミーティングを利用して身体拘束の認識を各職員に徹底している。又、研修会に参加した社員の報告を基に参考としてケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	必要があれば、施錠しているが、基本としては、施錠しない方向に努力している。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	本人のプライバシーについて居室の施錠はしておられる。必要に応じ配慮している。 徘徊者に関しては、常に注意に心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物の管理、くずりの管理には特に注意をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、は、特に一人一人の動きの状態を観察して事故防止に取り組んでいます。	○	
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。			
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策のマニュアル表示している。	○	地域での応援を運営委員会のほうより声を掛けてもらって検討をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	その都度、御家族には相談して対応している。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方に基づき家族と相談しながら支援をしている。	○	現在薬局との提携のもと管理の相談をしている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	運動の働きかけや水分の摂取、くすりでの調整し、便秘の回避に心がける。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、各利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	福祉食の宅配を受けているためにカロリーは、考えている。水分補給についてはバイタルチェックに基き管理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防に対する注意項目を箇条書きにして厨房入り口に張り出して特に注意をしている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は、冷蔵庫にて保管、残飯等はゴミ処理機にてその都度処理している。調理用具等は、ハイターにて消毒を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	和風の民家の様な出入り口にして花壇を設置して美化に努め親しみやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や植木などを設置したり、家庭菜園の収穫物を楽しんでもらっている。一般家庭と同じ様な雰囲気にかけている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナーを設け、居室以外でもくつろぐことが出来る工夫をしている。居間には、テレビ、CDで楽しむようにしている。	?	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具等の持ち込みも歓迎しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気に配慮、温度調整にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	トイレは3箇所設置している。 転倒による骨折の防止として、コルクマットにより衝撃を少なく自立した生活を送れるよう工夫している。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日時が良く解る様に大きくカレンダーを設置している。 自分の居室が解らない人などには張り紙、ぬいぐるみなどを設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上で自由に外気欲をしたり、散歩を楽しんだり出来る工夫、又家庭菜園等行い季節感を引き出すようにしている。	○	

**V サービスの成果に関する項目 1F**

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ○ ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② ○ 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない



95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I 理念の基づく運営</b>				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念には独自の内容は記入されていないが、取り組みとして屋上を開放して、菜園や気分転換の場として活用している。	○	今後夏場の有効利用が出来る様な設備を設ける。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	声掛けにより理念に基づいた支援に努力している。	○	朝の申し送り時間を利用して、理念の理解と実践について、職員に浸透させる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営委員会や近隣との交流により、地域の人たちにかなり理解してもらおうようになった。	○	時間を掛けて全員に協力して頂くよう努力する
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の行事や公民館活動に参加している。又、散歩時に、挨拶、声掛けを行っている。	○	気軽に、近隣の方にホームの方に立ち寄り、一緒に散歩などできる関係を作りたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に、入会して清掃活動参加している。夏祭り・公民館祭り・ひな祭り等に参加させてもらっている。又、女性会に加入し生け花教室に参加し、施設の近況や交流を深めている。近くのボランティア団体との交流を実施して		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の民生委員の協力を得ながら取り組んでいる。	○	
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	注意事項などは、朝礼又書類により伝達しているが、具体的な改善までは到っていない	○	具体的な改善までには到っていない。 ミーティング等を利用して、全員が理解するように取り組む
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において意見や提案を、 していただく様な環境が出来つつある。	○	推進会議の意見や提案を活かして、事故、利用者サービスや評価の報告相談を蜜にして、近隣の協力が得られる様にする。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	報告事項や、相談、連絡は滞りなく行っている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在は、成年後見制度を必要とされる方はいないが、今後のために必要に応じ支援したいと思 います。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加して、報告書を提出し又、朝の申し送り等で報告や相談を行なっている。	○	勉強会等で、虐待の認識を深める。朝の申し送り時に利用者の身体状況の報告により確認して防止に努めている。
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約は十分説明を行い納得できるまで説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情 ご意見箱を設けている。 訪問時など話を伺い対応をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	訪問時など暮らしぶりなど報告をしている 緊急な場合等は電話で連絡している。 請求書を発送する際日頃の様子を記入した簡単な文書等を入れ報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問日時を事前に聞いて、出来るだけ意見を聞ける様に心掛けている。又、家族会なども伺う様に心掛けている。	○	家族会の回数を増やし多くの意見が聞かれる様にする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングにより意見や提案を聞く機会を設け反映させる。	○	今後は運営者と職員の話し合いも実施して行きたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	朝の時間帯については、特に起床や朝食時間などは利用者の健康状態や要望により柔軟に行っている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	該当なし。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会には出来る限り参加するよう心がけている。資格等の取得に対しては援助をしている。	○	施設内での研修を設けたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の施設の見学や意見交換を行っている。他の施設従事者の見学訪問の受け入れを行っている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	食事会等により職員間のコミュニケーションや入浴券の配布等によりストレス解消に努めている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員に介護の工夫や勤務に対する意見を求めて改善出来る事は改善する様にしていく。介護の研修会等に出来るだけ参加する様にしていく。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前に、本人並びにご家族との話を聞く様に心掛けている。又ご入居ご訪問時に話しやすい環境に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	訪問時などに情報交換をすることにより、お互いが理解できるよう心掛けている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をケアプランに反映するよう心がける。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みの家具の持ち込みを進めている。今までの生活歴等を、聞き会話を進める様に心がけている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族同様に喜怒哀楽を共にし、出来る限りの関係を築くよう心掛けている。	○	現在出来ることを少しでも維持できるように、声掛けして本人の意思の確認を行う。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が自由に訪問出来る様に心がけている。 又、職員に認識の徹底を図る	○	
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	訪問時に近況報告、相談を必ず行う、家族と良く話し合って明るく生きがいのある生活が出来るよう努めている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族や友人の訪問を出来るだけお願いしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブルが起こらないよう居室、食事の机の配置の変更等を行い利用者間の関係改善をする。	○	ストレスがたまらない為にも散歩等を行う
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じて対応に努める。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時、御家族の訪問時に、本人と話し合いながら意向の把握に努めている。本人の意見を必ず聞いて判断する。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時また訪問時にこれまでの環境、生活歴等を聞いて少しでも取り入れるよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝の申し送り時、前日の状況など報告と共に、状況変化を把握するように努めている。 病状変化の時は担当医師に報告、連絡し対応を相談している。	○	
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	数人の職員により意見交換をしながら行っている。 今後出来るだけ全員参加を目標とする。	○	カンファレンス会議を行い細かい介護計画を作成する。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて話し合いを行い、必要に応じて介護計画の変更するよう心掛けている	○	共通の介護計画、介護者の意見の取り入れ。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア記録を書いて、1ヵ月間の取り組みや見直し等をまとめて記録している。	○	
3 多機能性を活かした柔軟な支援				



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	本年11月から取り組む予定。	○	
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化 ・教育機関等と協力しなが ら支援している。	お祭り、など地域での行 事での参加に心がけてい る。女性会、民生委員等と 連携をとっている。	○	地域との連携によりボラ ンティアも検討中
41	○他のサービスの活用支 援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケア マネージャーやサービス事 業者と話し合い、他のサ ービスを利用するための支 援をしている。	常時は行っていないが 必要に応じて行ってい る。		
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと協 働している。	運営委員会を通じて必 要に対応している。		
43	○かかりつけ医の受診支 援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得られ た係り付け医と事業所の 関係を築きながら、適切 な医療を受けられるよう 支援している。	家族と連絡を取りなが ら、かかりつけ医と共に 、現在は、在宅療養支 援診療所での、対応によ り、安心して適切な医 療が出来るように、心 がけている。	○	
44	○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係築きながら、 職員が相談したり、利 用者が認知症に関する 診断や治療を受けられ るよう支援している。	利用者様の係り付けの 医師との連絡を行って いる。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	必要に応じて行っている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	必要に応じ対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族と協議しながら、医療機関と連携を保っている。	○	医療機関と並びに御家族と話し合いながら支援に取り組む。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族と相談しながら24時間対応の医療機関と連携を行っている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	家族と、協議しながらご希望に添えるよう対応している。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの確保について、職員へ認識の徹底を朝礼やミーティングによりつたえている	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意思を聞きながら、家族と相談して本人の希望に沿う様に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調を考え、出来る限り、希望に沿うよう支援している。	○	個々の希望に沿った支援をする。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者の介護度に応じて家族と本人を相談しながら対応している。		おしゃれ心をいつまでももたれるよう支援をする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は大変楽しみの一つで喜んで頂けるよう支援しています。現在、声掛けは行っているが、片付け、テーブル拭き、手の消毒など出来ることを手伝っている。	○	準備なども出来る限り職員と共にするように心がける。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況により実施している酒、タバコについては、契約時家族に納得のいく充分説明をして、ご遠慮して頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別に対応するように心がけている	○	出来限り、オムツ使用を少なくする様に努める。自立の人は持続できるよう支援をする。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には週3回としているが汚染があればその都度対応している。又、本人の希望の希望にも必用に応じて対応している。		時間にこだわらず、入浴を楽しむ。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼間は出来るだけ散歩（館内含む）などの活動をされる様に声掛け誘導を行っている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の方々の趣味、特技を認知度に応じた活動（習字、料理、カラオケ）などを行っている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	契約時の説明によりお金の所持は禁止としている。但し、外出時などは家族の了解を得て小遣い使えるように行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望を出来るだけ取入れ、散歩や買い物など一緒に出かけている。又、家族との外出も勧めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年2回程度、バスでの外出する機会を設けている。	○	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて行っている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるように、職員皆が快く受け入れる様にしている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	朝礼やミーティングを利用して身体拘束の認識を各職員に徹底している。又、研修会に参加した社員の報告を基に参考としてケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	必要があれば、玄関の施錠はしているが、基本としては、施錠しない方向に努力している。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	本人のプライバシーについて居室の施錠はしておられる。必要に応じ配慮している。 徘徊者に関しては、常に注意に心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物の管理、くすりの管理には特に注意をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、は、特に一人一人の動きの状態を観察して事故防止に取り組んでいます。	○	
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急時の対応の研修に参加		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策のマニュアル表示している。	○	地域での応援を運営委員会のほうより声を掛けてもらって検討をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	特に転倒へのリスクなどは、ご家族の方と話し合い、説明によりご理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	その都度、御家族には相談して対応している。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方に基づき家族と相談しながら支援をしている。	○	現在薬局との提携のもと管理の相談をしている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	運動の働きかけや水分の摂取、くすりでの調整し、便秘の回避に心がける。	○	自立の人の便秘の日数の管理の徹底
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、各利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	○	自立の人の声掛けの徹底
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	福祉食の宅配を受けているためにカロリーは、考えている。水分補給についてはバイタルチェックに基き管理している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防に対する注意項目を箇条書きにして厨房入り口に張り出して特に注意をしている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は、冷蔵庫にて保管、残飯等はゴミ処理機にてその都度処理している。調理用具等は、ハイターにて消毒を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	和風の民家の様な出入り口にして花壇を設置して美化に努め親しみやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や植木などを設置したり、家庭菜園の収穫物を楽しんでもらっている。一般家庭と同じ様な雰囲気にかけている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナーを設け、居室以外でもくつろぐことが出来る工夫をしている。居間には、テレビ、CDで楽しむようにしている。	?	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具等の持ち込みも歓迎しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気に配慮、温度調整にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	トイレは3箇所設置している。 転倒による骨折の防止として、コルクマットにより衝撃を少なく自立した生活を送れるよう工夫している。	○	



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日時が良く解る様に大きくカレンダーを設置している。 自分の居室が解らない人などには張り紙、ぬいぐるみなどを設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上で自由に外気欲をしたり、散歩を楽しんだり出来る工夫、又家庭菜園等行い季節感を引き出すようにしている。	○	家庭菜園への参加を促す。

V サービスの成果に関する項目 2F

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ○ ② ③ ④	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○ ② ③ ④	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ○ ② ③ ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ○ ② ③ ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ○ ② ③ ④	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ ② ③ ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ○ ② ③ ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ○ ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② ○ 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ○ 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ○ ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ○ ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目